

放送日： 平成 20 年 3 月 9 日
タイトル： 緑内障について
担当者： 医師 関井 英一郎

今回は緑内障のお話しをします。

緑内障とは、ものを見るための視神経がおかされて、ものが見える範囲が狭くなっていくという病気です。適切な治療をおこなわずに放置すると失明してしまうおそれがありますので、早期に病気を発見して治療をはじめることが大切です。

眼のなかには房水という液体が循環しているのですが、この液体は眼の毛様体という場所で作られて、隅角という排水口から排出されていきます。この房水の循環や排出が何かの理由でうまくいかなくなると、液体が眼の中にたまり、その結果、眼が硬くなる、すなわち眼圧が高い状態になります。

こうして眼圧が高くなると視神経が圧迫されるため視神経に負担がかかり、視野が欠けるという症状がおきてくるわけです。

しかしながら緑内障のなかには、眼圧が正常なのに視野が欠けたりする「正常眼圧緑内障」というものもありますので、房水の循環や排出の不具合による眼圧の上昇だけが緑内障の発症原因ではないと考えられています。

特に私たち日本人にはこの「正常眼圧緑内障」の割合が高いということが近年の疫学調査で明らかになっています。

さて、緑内障の最も一般的な症状として、はじめに言いましたとおり視野が欠ける、すなわち物が見える範囲がせまくなるなどの異常が挙げられますが、この症状は緑内障の初期の段階では自覚されないことも多く、はっきりと自覚されるようになったときにはもうすでに病気がかなり進んでいることが多いと言われています。

したがって、病気の初期段階で緑内障を発見するためには、眼科検診を受けることが大切です。

なお、このような一般的な症状のほかに、眼圧が急激に上昇することによって急性の緑内障発作がおこることがあります。この発作がおきると、眼の痛みや頭痛・吐き気や眼のかすみといった症状がみられる場合もあります。

緑内障と診断されれば、治療を受けることとなりますが、緑内障の治療の基本は「眼圧を下げる」ということです。これは、眼圧が正常値の範囲内である「正常眼圧緑内障」においても有効な方法です。

眼圧を下げることで、視神経への負担を減らし、緑内障の進行を遅らせることができるのですが、残念ながら緑内障を完治させる方法はありません。

治療にあたっては、まず、治療を受ける方の緑内障の進行度合いや眼圧の値、視神経の状況などをみて目標とする眼圧の値を決めます。そして、眼圧を下げる効果のある目薬をはじめます。

その後、治療の経過をみて、目薬の種類を変えたり、進行の度合いによってはレーザー治療や手術療法を検討したりする場合があります。

緑内障の目薬は、作用する場所や効果によって異なる種類があります。まずは必要最小限からスタートしますが、これで眼圧が下がらない場合には、目薬の種類を変えたり、追加したりします。

目薬を用いるうえで重要なのは、決められた時間や回数と量を守ることです。特に点眼回数と量については医師の指示を守ることが大切です。

なお、ぜんそくや心不全、腎障害、糖尿病などの疾患がある場合には、あらかじめ医療機関にそのことを告げて、相談しながら治療をすすめる必要があります。他に医療機関で処方されたお薬を服用されている場合も同じです。

目薬による薬物療法で十分に眼圧が下がらない場合は、レーザーによる治療や手術による治療が検討されます。

近年のいろいろな医療技術の進歩によって、この緑内障という病気も早期に発見して治療をはじめることができるようになりました。

今でもこの病気が原因で失明にいたることは少なくありませんが、早期に発見し、適切な治療をはじめることによって失明を避けることが可能になってきました。

40才を超えられた方は一度眼科検診を受けられては如何でしょうか。